

令和8年度第1回緑高運営協議会 議事録

令和8年6月26日(金)

10:00～11:30 会議室

1 委員委嘱

2 校長挨拶

SSHの指定を継続していけるようにしたい。

3 出席者紹介（自己紹介）

- ・立川 仁典 (横浜市立大学 教授)
- ・増田 宣明 (横浜市立仲尾台中学校 校長)
- ・佐久間 弘子 (本牧緑ヶ丘自治会 会長)
- ・江波戸 理恵 (本牧緑ヶ丘町内会 会長)
- ・中村 ひとり (牧陵会 会長)
- ・小島 淳子 (牧陵会)

本校より

- ・増田(校長) ・上原(副校長) ・日永(教頭) ・松井(進路G) ・亀井(教務G)
- ・保田(研究G) ・服部(生徒G) ・安斎(安全G) ・田村(広報G)

記録

- ・瀬戸(進路G) ・内山(進路G)

欠席者

- ・新井 立夫 (文教大学 教授)
- ・田中 良樹 (横浜市立本牧中学校 校長)
- ・後藤 美春 (後援三徳会 理事長)

4 会長選出

立川仁典先生に決定。

5 協議

- ・グランドデザインについて

校長より説明。グランドデザインは、昨年度から引き続き手を加えていない。リーダー育成のための教育活動に力を加えていきたい。また、地域との連携を大切にし、防災についても力を入れていきたい。

- ・今年度の取り組みについて

学校要覧を参照して校長より説明。

- ・協議事項

- 教務Gより

- カリキュラムポリシーについて、すべての教科の授業で探究的な学習への取り組み、もしくは設定をしていきたい。

- 補足だが、中学生に探究的な学習に力を入れていることを周知されており、それを目的に受験をする生徒が増えてきていると感じる。

- 授業では、活動の振り返りが、50分の授業時間では十分に行えない。そのため、65分に変更するという決断に至った。また、情報と探究の授業を切り離して行う。

- これらの取り組みを通して生徒の変容を見ていきたい。

- 安全Gより

- 他者尊重の精神・心構えを育みたい。自分のことだけではなく、相手のことも見ることが出来るように。

- 人間関係の調整をする能力が育っていない。ちょっとしたことですぐに不登校になる。そのため、組織的に取り組み体制を作っていきたい。

- 進路Gより

- 大学入学後の進路やキャリアについて伝える必要がある。保護者の方にも進路支援や情報を伝えていく。

- 広報Gより

- HPの更新頻度を増やして情報の開示を行う。地域等の方からの意見を真摯に受け止め、行動をしていきたい。

- 安全Gより

- オフィス改善を行い、事故防止にもなっていると感じる。

- ・設置部会について

- 資料の通り。

- ・質問と返答

- Q：65分授業にするメリットについて。

- A：実験の準備や片付けをやり切り、振り返りができる。

- 途中で小休止をはさむことで、板書の整理や仕切り直しができる。

- Q：「緑の探究」の単位数を「5」にする理由。

- A：SSHのねらいをより達成できるようにするためにも、今の単位では足りないという意見があった。

- Q：今年度の取り組みについて、内容によっては数値目標を入れてみては。

- A：検討する。

Q：地域連携についての生徒のモチベーションは。

A：お祭りの行事については、生徒は興味があるが自分から参加は難しい。そのため、広報Gから募っている。参加した生徒からは自身の地元でも行事に参加したいという意欲が湧いた生徒もいた。

Q：中学校でこういう事を身につけてほしい、学びをしてほしいというのが何かあれば。

A：小・中学校で話し合い活動のやり方等の訓練がされている。その力が本校でも引き続き生かされていると感じる。

・その他の話題

難関大学（東京・京都・一橋・東京科学）やスーパーグローバル大学の合格者25%以上を目指す（昨年度は28%）。

模試について。年々上位者（偏差値60以上）の人数が減ってきている傾向に感じる。

東大・京大志望は、本校ではなく他の高校を目指している？

他校に比べて、進学についていろいろいわれない学校とされている。

のびのびやっても成果が出ることを、うまく広報できれば。

中学生は私立に流れている。ただ、上位の生徒はあまり変わらない。

上位層が減っていても探究はしっかりやるなど、今までの良さを大切にしてほしい。

保護者へのアピールも必要なのでは？

探究発表会を含めた、緑高生の活動を見る機会をつくってみては？